

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3650180189		
法人名	医療法人 敬老会		
事業所名	グループホームフォレスト		
所在地	徳島県徳島市八万町大野7-1		
自己評価作成日	平成27年12月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のペースに合わせて、職員も一緒に生活しているという雰囲気作りを大切にしている。開放的な環境で、自由にのびのびと生活して頂いている。中庭や畑、ウッドデッキなど庭にも工夫し、屋外ならではの有効活用が出来ている。利用者一人一人が生きがいを持って生活出来るように、また個人の能力を最大限に発揮出来るように取り組んでいる。クラブ活動も多様で、利用者が選択して参加出来るよう工夫している。家族にボランティアや慰問という形で、介護の場面に関わりをもって頂いている。協力病院と密な連携が取れ、時間外でも相談する等普段から気軽に話し合える関係が出来ている。同一敷地内に医療・保健・福祉施設が隣接しており、状態の変化時にも馴染みのある環境で対応出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、理念の実現に向けて具体的な基本方針を定めている。職員は、利用者の生活歴の把握に努め、一人ひとりの趣味や得意だったことを一緒に取り組んでみるなどして、これまでの生活の継続を支援している。共有空間である広い中庭には四季折々の木々を植えており、季節を感じる事ができる。事業所の菜園で収穫した野菜を食材として活用している。事業所として、定期的に周辺道路の清掃活動に参加したり、近隣の畑の収穫作業を行ったりして、日常的に地域の方と交流を行っている。保育所の子どもたちとの交流を継続的に行っており、利用者の楽しみのひとつとなっている。職場内研修の際には、職員が交代で講師役を担うなどして、自らのケアの質の向上と職員同士の連携強化に取り組んでいる。協力医療機関との連携体制も構築し、利用者や家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に管理者より理念について説明を行い、理解・共有出来るように努めている。その他研修や勉強会、申し送り時など、日常業務の中でも理念に基づいた考え・行動が出来るよう、振り返りの機会を設けている。	事業所の開設時の思いを集約し、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。また、理念の実現に向けた基本方針を示しおり、具体的な内容となっている。利用者や家族にも理念を説明している。朝の申し送り時などに職員間で理念を唱和し、支援の原点として捉えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と気軽に声を掛け合えたり、野菜を頂くなど良好な関係は出来つつある。地元行事(八万文化祭)に作品を出展したり、地域の保育所とは毎月交流の場を設けている。2ヶ月に一度、施設周辺の道路の清掃活動を行っている。	事業所として様々な地縁組織等に加入しており、地域の一員として交流している。月1回、保育所の子どもの来訪があり、利用者や職員とともに遠足や運動会を楽しんでいる。日頃から事業所では、利用者の散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり、野菜を差し入れてもらったりして、相互に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の婦人会等から施設見学に来られ、介護サービスやグループホームに関する質問も多くある。法人として、びっくり日曜市で毎月一回介護相談のブースを開設し、フォレストの職員も参加して相談の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出席された御家族や委員の意見を、カンファレンスや担当者会議にも取り上げたり、法人全体へ報告し、サービス向上に繋がるように努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には家族の参加も得ており、事業所の取り組みや利用者の状況や行事について報告している。認知症への理解や地域防災等に関する話し合いも行っており、事業所への意見を出してもらっている。出された意見は職員間で話し合って運営面に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	要介護認定申請時など、市役所へ出向いた際には、事業所の現状を伝え情報交換しながらアドバイスも貰っている。	毎月、職員は市担当窓口を訪問し、実績報告書を提出したり、事業所の現状や取り組みを伝えたりしている。利用者の状況などについて相談し、アドバイスや助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の為の勉強会を実施し、全職員が理解を深めるようにしている。玄関には鍵をかけず、チャイム音やドアの開閉音に気を配ることで、利用者の自由な出入りが出来るようになっている。	事業所では、職員が身体拘束の弊害を理解するよう取り組んでおり、拘束のないケアを実践している。職員間で、言葉による抑制や無意識のうちに身体拘束を行っていないかなどについて確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を行い、全職員に気づきの機会を設けている。身体面だけでなく精神面での虐待も考えたケアに全職員で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者の入居を機に、研修会を開催し、職員全員が制度について理解出来るようにしている。玄関にパンフレットを置くなどして、家族にも啓発している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書及び重要事項説明書の内容について十分な時間をとって説明を行っている。また自由に質問していただき、理解が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日常の関わりの中から、思いをくみ取るように努めている。家族の面会時には職員から声をかけ、意見等を頂きやすい雰囲気作りを心がけている。意見箱も設置し、意見等を職員間で共有し、改善できるよう話し合う機会を持っている。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で、意向や希望を確認するようにしている。家族会のほか、来訪時には積極的に話しかけるようにしている。また、話しやすい雰囲気作りを努めている。出された意見は職員間で話し合って運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや会議などを通じて意見を広く聞けるようにしている。出された意見の中からさらに検討を加え、前向きに反映させている。	管理者は、ミーティングなどの機会に職員の話聞くようにしている。また、日頃の支援を通じてケアに対する思いや意見を聞いている。園芸や美容等の職員一人ひとりの特技を日頃の取り組みに取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況・業績などを業務中の動きの中から確認し、各自に合った担当業務・職場環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には1週間の研修期間を定め、基本的な技術を学ぶ機会を設けている。また月1回近隣施設との合同勉強会やホーム内での勉強会も行っている。法人外の研修も年間計画を立て、効果的に参加出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと広報紙のやりとりをして、相互の活動状況を参考にしている。見学会も計画中である。その他の研修でも、他施設への実習や受け入れなど積極的にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入居前にご自宅等の訪問面接を行って、現在の悩み・不安・希望などを直接聞く機会を作っている。また入居前健康診断時には御家族に同席して頂き、利用開始前までに良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の契約には十分に時間をかけ、丁寧に説明している。質問にもその場で答え、不安が解決できてから入居となるよう努力している。小さな悩みなども一緒に解決策を考えて実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の滞在希望があれば、日中のみではあるが、できるだけ臨機応変に対応している。相談内容によって、他施設の相談員やケアマネージャーと連携を図り、他のサービス利用の支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「生きがいを見つけ、共に育む!」という理念に基づき、様々な暮らしの場の中でのとに行う事、支え合うことを実践している。野菜づくり・調理・洗濯等を行う中で、得意分野を見つけれられるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常の様子をこまめに相談・報告、来訪時の他、必要に応じて随時個別に話し合い、課題の解決策などを一緒に考えている。家族が音楽療法の一環として合唱クラブに力を貸して下さり、利用者の生活に潤いを与えて下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい人が気軽に来られるように雰囲気作りに配慮している。また、以前利用されていた馴染みの店などには個別に外出して利用して頂いている。	事業所では、利用者が馴染みの理・美容院や商店への買い物に出かけることができるよう支援している。家族の協力を得るなどして、一時帰宅等ができるよう支援している。職員は、一人ひとりの趣味や得意な野菜作りを支援することで、馴染みの人や場所等、関係の継続に留意した取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡し役となって毎日の生活の中で、利用者同士の関係が上手くいくように努めている。新しく入居された方や特に援助が必要な方には個別に支援し、孤立感を感じさせない工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も病院等を訪問したり、いつでも気軽に立ち寄れるよう声かけなどを行い、継続した関係作りに努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の意向がくみ取れるよう担当者会議には一緒に参加して頂き、個別にコミュニケーションを取るように努めている。小さな事柄でも、なるべく本人に意思決定してもらえるような場面を工夫して作っている。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。利用者が暮らしの中で自己決定できるよう配慮した支援を行っている。意志の表出が困難な方には、表情等から意向を汲み取るなどしている。職員間で記録を確認するなどして情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人宅を訪問して、環境について把握できるようにしている。入居後も随時今までの生活の様子を本人や家族から聞き取る等して、把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に入居者の全体像を把握して介護にあたるように入居者一人一人の生活リズムを理解している。日頃の生活の中で、新しく把握出来た事柄については、申し送りノートを活用し、全員が把握出来るように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング・担当者会議の他、必要に応じてケースカンファレンスを行い、またその都度グループ内の他職種からも意見を聞く機会を持ち、その方に適した介護計画書の作成・見直しを行っている。	本人や家族の希望を尊重したうえで、担当職員や関係者間で話し合っって介護計画を作成している。毎月、担当職員が中心となってモニタリングを行っており、課題やケアのあり方について検討している。利用者の心身状況の変化に応じて、随時、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日々のケアを記録する他、自由に文章を記入するページを用いて、気づきなども自由に書き込めるよう、指導している。毎朝の申し送り時に個別のケアについての報告・意見交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向のもと、個別の機能訓練や通院など必要な支援を柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のスーパー・美容院・図書館・花屋・健康館等を活用し、社会の一員としての生活を楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人・家族の意向を確かめ、希望になるべくそえるよう柔軟に対応している。協力病院での受診支援に加えて、眼科・歯科・皮膚科など個別に送迎を行い、受診できるように支援している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。眼科などの専門科の受診時には、職員が同行する場合もある。家族と連絡を取り合い、協力を得て支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師とは、こまめに報告・連絡・相談を行い、アドバイスや、必要に応じて処置も行ってもらっている。状態に応じた適切な受診・看護が受けられるよう支援している。勉強会の講師もお願いし、専門的な知識習得に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ入院した場合は、医師・看護師との情報交換を行い、早期退院に向けて調整している。見舞いに出掛け、状態把握の為、担当職員との情報交換にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医師・家族・本人と共に終末期の方針について話し合い、意向を確認している。また方針が未定の方については、考えるきっかけを作っている。その後も状態に応じて随時話し合い、方針を固めていけるよう支援し、結果を把握するとともに対応している。	契約時の段階で、利用者や家族に終末期に関する事業所の方針等を説明し、一人ひとりの意向や希望を確認している。利用者の心身状況の変化に応じて関係者間で話し合うなどして、再確認している。医療関係者とも密に連携を図るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、新人研修の他、定期的な勉強会の場を用いて技術訓練を行っている。勉強会も何度かに分けて多くの職員が参加出来るようにしている。また定期的に実地訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新人研修の際に個別に指導する他、年2回の避難訓練も行っている。特に夜間の避難誘導に積極的に取り組み、夜勤職員は交代で訓練を繰り返し行っている。	年2回、同一法人の運営する他サービス事業所の協力を得て避難訓練等を実施している。また、夜間の避難誘導訓練も繰り返し行っており、避難経路の確認等に取り組んでいる。法人として災害時の連絡体制を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、尊敬の念を持って接し、「～させて頂く」という謙虚な気持ち・態度を常に持つよう指導している。接遇マナー・プライバシーの保護についての講習会を行う他、個別に指導も行っている。	職員は、利用者一人ひとりの生活歴を把握するよう努めている。利用者や家族と相談し、写真を飾ったり、個室の表札を掲げたりしている。管理者から職員へ、利用者の権利擁護について個別に話す機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話にも意見や希望を言いやすい雰囲気作りを心がけ、様々な場面で自己決定できるように、質問の仕方も工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決めているが、食事・入浴・起床・就寝などの時間は明確には決めず、個人ごとの生活スタイルに合わせて臨機応変に対応している。クラブ活動や行事への参加も個人の意向を聞いて参加して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力して頂き、お気に入りの服や帽子、いつも使用している化粧品等を持参して頂いている。更衣時には着たい服と一緒に選んで頂いたり、女性には眉カット等もさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、台ふきや配膳、調理、片付けなどを担って貰っている。ホームの畑と一緒に収穫した野菜を食材として使用し、そのことを食事中の話題にして楽しく食事をして頂いている。	事業所の菜園で収穫した食材を活用している。利用者と職員で同じ食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中で会話を楽しみつつ食事をとっている。献立について話し合ったり、準備や後片付けをしたりしている。中庭で食事を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・体重をチェックし、変化のある方は法人施設の管理栄養士に相談して形態を工夫したり、家族に好物を尋ねたりして必要な栄養摂取が出来るよう対応している。特に水分量については全職員が情報を共有、補給出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に歯ブラシを用意し、洗面所で歯磨きを行って頂けるよう支援している。介助を要する方にはガーゼ・スポンジ等を用いて介助し、口腔清潔の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時、申し送り時やカンファレンス時など、個々のケースでパターンを報告・検討し、個別のタイミングを図って、常に一つ上のレベルへ改善できるよう、努めている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。さりげない誘導に努め、トイレでの排泄を支援している。尿意のない方にも、さりげない声かけや誘導を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬になるべく頼らず、日頃から食事に食物繊維を多く含めるよう努め、特に配慮が必要な方にはヨーグルトやバナナなど食品で工夫したり、散歩などの運動に誘い、自然な排便へと繋がるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や状態により、時間帯を工夫し、夜間や日曜日などにも随時対応している。	事業所では、利用者の希望に添った入浴を支援している。利用者同士と一緒に入浴を楽しむ場合もある。入浴を無理強いすることなく、拒む方にはタイミングや職員を変えて声かけをするようにしている。一人ひとりの気持ちを大切に、本人が納得して入浴することができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや畳の間、廊下のスペース、居室などで自由に過ごしていただけるよう、その方の状況に応じて個別に支援している。リビングには穏やかな音楽を流すなどの工夫も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報提供書は、事務所内の見やすい所にファイリングしている。変更のあった際には、注意点などを申し送りノートで伝達・回覧している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の要望・楽しみがカンファレンス・担当者会議を通じ、ケアプランにもつなげられるよう、取り組んでいる。またそのような機会を多く提供できるよう、家事・余暇の内容にも工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春には花見、夏には阿波踊り、秋にはドライブと、季節ごとに外出行事を設けている。天気の良い日には、中庭や裏庭でおやつやラジオ体操、事業所前の土手へ散歩に出掛けている。また、個人の希望により、買い物・墓参りなどにも出掛けている。	事業所では、天候の良い日には利用者が中庭で食事をしたり、近隣の土手を散歩したりすることができるよう支援している。家族の協力を得るなどして、季節の花見等へ出かけている。また、買い物や墓参りなど、一人ひとりの希望に応じた外出も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持たれている方もいる。もたれていない方には小銭と財布を用意し、外出時の支払いはご自分でしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内に誰でも使用できる電話機を設置し、自由に使って頂き、必要に応じて番号を押すなどの支援を行っている。個人宛に届いた手紙は室内で本人に開封して頂き、必要に応じて電話や葉書での返信の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには音楽を流し、くつろげる雰囲気作りを行っている。中庭には紅葉、裏庭には芝生を植え、畑では季節の野菜を育て、それぞれの場所がいこいの場になっている。事業所は室内にいながら外の風を感じられる開放的な造りとなっている。	建物の中心部に広い中庭があるなど、落ち着いた雰囲気の中で生活することのできる環境となっている。浴室は広く、気の合う利用者同士で入浴を楽しんでもらうこともある。共有空間では、洗濯物をたたんだり、利用者間で談笑したりして過ごすことのできる空間となっている。トイレなどの清掃も清潔に保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭に面してなごみの間や畳コーナーを設け、一人の時間を持って頂ける空間を作っている。また中庭にもベンチを置き、屋外でもくつろげる場所を創出し、空間造りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れた馴染みのものを持ち込んでいただけるよう説明・支援している。入居者の方の中には、位牌・趣味で作成された作品などを置かれている方もおられる。	事業所では、居室に利用者の使い慣れた家具を持ち込んでもらっている。利用者によっては趣味の作品や写真を飾ったり、家族と話し合っ表札を掲げたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	戸感いや不安が少なく過ごせるよう、個人の能力に合わせて居室の案内やトイレの使い方・冷暖房の使い方等工夫して対応している。個別にタンスや柱にクッション材を使用したり、表札の工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に管理者より理念について説明を行い、理解・共有出来るように努めている。その他研修や勉強会、申し送り時など、日常業務の中でも理念に基づいた考え・行動が出来るよう、振り返りの機会を設けている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と気軽に声を掛け合えたり、野菜を頂くなど良好な関係は出来つつある。地元行事(八万文化祭)に作品を出展したり、地域の保育所とは毎月交流の場を設けている。2ヶ月に一度、施設周辺の道路の清掃活動を行っている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の婦人会等から施設見学に来られ、介護サービスやグループホームに関する質問も多くある。法人として、びっくり日曜市で毎月一回介護相談のブースを開設し、フォレストの職員も参加して相談の場を設けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出席された御家族や委員の意見を、カンファレンスや担当者会議にも取り上げたり、法人全体へ報告し、サービス向上に繋がるように努めている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	要介護認定申請時など、市役所へ出向いた際には、事業所の現状を伝え情報交換しながらアドバイスも貰っている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の為の勉強会を実施し、全職員が理解を深めるようにしている。玄関には鍵をかけず、チャイム音やドアの開閉音に気を配ることで、利用者の自由な出入りが出来るようになっている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を行い、全職員に気づきの機会を設けている。身体面だけでなく精神面での虐待も考えたケアに全職員で取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者の入居を機に、研修会を開催し、職員全員が制度について理解出来るようにしている。玄関にパンフレットを置くなどして、家族にも啓発している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書及び重要事項説明書の内容について十分な時間をとって説明を行っている。また自由に質問していただき、理解が得られるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日常の関わりの中から、思いをくみ取るように努めている。家族の面会時には職員から声をかけ、意見等を頂きやすい雰囲気作りを心がけている。意見箱も設置し、意見等を職員間で共有し、改善できるよう話し合う機会を持っている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや会議などを通じて意見を広く聞けるようにしている。出された意見の中からさらに検討を加え、前向きに反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況・業績などを業務中の動きの中から確認し、各自に合った担当業務・職場環境を整備している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には1週間の研修期間を定め、基本的な技術を学ぶ機会を設けている。また月1回近隣施設との合同勉強会やホーム内での勉強会も行っている。法人外の研修も年間計画を立て、効果的に参加出来るよう努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと広報紙のやりとりをして、相互の活動状況を参考にしている。見学会も計画中である。その他の研修でも、他施設への実習や受け入れなど積極的にしている。			

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入居前にご自宅等の訪問面接を行って、現在の悩み・不安・希望などを直接聞く機会を作っている。また入居前健康診断時には御家族に同席して頂き、利用開始前までに良好な関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の契約には十分に時間をかけ、丁寧に説明している。質問にもその場で答え、不安が解決できてから入居となるよう努力している。小さな悩みなども一緒に解決策を考えて実践している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の滞在希望があれば、日中のみではあるが、できるだけ臨機応変に対応している。相談内容によって、他施設の相談員やケアマネージャーと連携を図り、他のサービス利用の支援も行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「生きがいを見つけ、共に育む!」という理念に基づき、様々な暮らしの場の中でのともに行う事、支え合うことを実践している。野菜づくり・調理・洗濯等を行う中で、得意分野を見つけれられるよう支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常の様子をこまめに相談・報告、来訪時の他、必要に応じて随時個別に話し合い、課題の解決策などを一緒に考えている。家族が音楽療法の一環として合唱クラブに力を貸して下さり、利用者の生活に潤いを与えて下さっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい人が気軽に来られるように雰囲気作りに配慮している。また、以前利用されていた馴染みの店などには個別に外出して利用して頂いている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡し役となって毎日の生活の中で、利用者同士の関係が上手くいくように努めている。新しく入居された方や特に援助が必要な方には個別に支援し、孤立感を感じさせない工夫をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も病院等を訪問したり、いつでも気軽に立ち寄れるよう声かけなどを行い、継続した関係作りに努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の意向がくみ取れるよう担当者会議には一緒に参加して頂き、個別にコミュニケーションを取るよう努めている。小さな事柄でも、なるべく本人に意思決定してもらえるような場面を工夫して作っている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人宅を訪問して、環境について把握できるようにしている。入居後も随時今までの生活の様子を本人や家族から聞き取る等して、把握出来るよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に入居者の全体像を把握して介護にあたるように入居者一人一人の生活リズムを理解している。日頃の生活の中で、新しく把握出来た事柄については、申し送りノートを活用し、全員が把握出来るように工夫している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング・担当者会議の他、必要に応じてケースカンファレンスを行い、またその都度グループ内の他職種からも意見を聞く機会を持ち、その方に適した介護計画書の作成・見直しを行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日々のケアを記録する他、自由に文章を記入するページを用いて、気づきなども自由に書き込めるよう、指導している。毎朝の申し送り時に個別のケアについての報告・意見交換を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向のもと、個別の機能訓練や通院など必要な支援を柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のスーパー・美容院・図書館・花屋・健康館等を活用し、社会の一員としての生活を楽しめるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人・家族の意向を確かめ、希望になるべくそえるよう柔軟に対応している。協力病院での受診支援に加えて、眼科・歯科・皮膚科など個別に送迎を行い、受診できるよう支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師とは、こまめに報告・連絡・相談を行い、アドバイスや、必要に応じて処置も行ってもらっている。状態に応じた適切な受診・看護を受けられるよう支援している。勉強会の講師もお願いし、専門的な知識習得に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ入院した場合は、医師・看護師との情報交換を行い、早期退院に向けて調整している。見舞いに出掛け、状態把握の為、担当職員との情報交換にも努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医師・家族・本人と共に終末期の方針について話し合い、意向を確認している。また方針が未定の方については、考えるきっかけを作っている。その後も状態に応じて随時話し合い、方針を固めていけるよう支援し、結果を把握するとともに対応している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、新人研修の他、定期的な勉強会の場を用いて技術訓練を行っている。勉強会も何度かに分けて多くの職員が参加出来るようにしている。また定期的に実地訓練も行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新人研修の際に個別に指導する他、年2回の避難訓練も行っている。特に夜間の避難誘導に積極的に取り組み、夜勤職員は交代で訓練を繰り返し行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、尊敬の念を持って接し、「～させて頂く」という謙虚な気持ち・態度を常に持つよう指導している。接遇マナー・プライバシーの保護についての講習会を行う他、個別に指導も行っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話にも意見や希望を言いやすい雰囲気作りを心がけ、様々な場面で自己決定できるように、質問の仕方も工夫している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決めているが、食事・入浴・起床・就寝などの時間は明確には決めず、個人ごとの生活スタイルに合わせて臨機応変に対応している。クラブ活動や行事への参加も個人の意向を聞いて参加して頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力して頂き、お気に入りの服や帽子、いつも使用している化粧品等を持参して頂いている。更衣時には着たい服を一緒に選んで頂いたり、女性には眉カット等もさせて頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、台ふきや配膳、調理、片付けなどを担って貰っている。ホームの畑と一緒に収穫した野菜を食材として使用し、そのことを食事中的話題にして楽しく食事をして頂いている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・体重をチェックし、変化のある方は法人施設の管理栄養士に相談して形態を工夫したり、家族に好物を尋ねたりして必要な栄養摂取が出来るよう対応している。特に水分量については全職員が情報を共有、補給出来るよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に歯ブラシを用意し、洗面所で歯磨きを行って頂けるよう支援している。介助を要する方にはガーゼ・スポンジ等を用いて介助し、口腔清潔の維持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時、申し送り時やカンファレンス時など、個々のケースでパターンを報告・検討し、個別のタイミングを図って、常に一つ上のレベルへ改善できるよう、努めている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬になるべく頼らず、日頃から食事に食物繊維を多く含めるよう努め、特に配慮が必要な方にはヨーグルトやバナナなど食品で工夫したり、散歩などの運動に誘い、自然な排便へと繋がるよう努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や状態により、時間帯を工夫し、夜間や日曜日などにも随時対応している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや畳の間、廊下のスペース、居室などで自由に過ごしていただけるよう、その方の状況に応じて個別に支援している。リビングには穏やかな音楽を流すなどの工夫も行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報提供書は、事務所内の見やすい所にファイリングしている。変更のあった際には、注意点などを申し送りノートで伝達・回覧している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の要望・楽しみがカンファレンス・担当者会議を通じ、ケアプランにもつなげられるよう、取り組んでいる。またそのような機会を多く提供できるよう、家事・余暇の内容にも工夫している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春には花見、夏には阿波踊り、秋にはドライブと、季節ごとに外出行事を設けている。天気の良い日には、中庭や裏庭でおやつやラジオ体操、事業所前の土手へ散歩に出掛けている。また、個人の希望により、買い物・墓参りなどにも出掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持たれている方もいる。もたれていない方には小銭と財布を用意し、外出時の支払いはご自分でしていただくようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内に誰でも使用できる電話機を設置し、自由に使って頂き、必要に応じて番号を押すなどの支援を行っている。個人宛に届いた手紙は室内で本人に開封して頂き、必要に応じて電話や葉書での返信の支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには音楽を流し、くつろげる雰囲気作りを行っている。中庭には紅葉、裏庭には芝生を植え、畑では季節の野菜を育て、それぞれの場所がいきい場になっている。事業所は室内にいながら外の風を感じられる開放的な造りとなっている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭に面してなごみの間や畳コーナーを設け、一人の時間を持って頂ける空間を作っている。また中庭にもベンチを置き、屋外でもくつろげる場所を創出し、空間造りを工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れた馴染みのものを持ち込んでいただけるよう説明・支援している。入居者の方の中には、位牌・趣味で作成された作品などを置かれている方もおられる。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	戸感いや不安が少なく過ごせるよう、個人の能力に合わせて居室の案内やトイレの使い方・冷暖房の使い方等工夫して対応している。個別にタンスや柱にクッション材を使用したり、表札の工夫をしている。			